

東毛広域幹線道路沿線地域活性化基盤整備計画

群馬県の現状

県央部、東毛部には多数の工業団地が密集しており、人、物の両面において活発な交流が行われています。

また、首都圏へ向かう関越自動車道、東北自動車道、上武道路などの南北方向への高速交通道路は整備されており、工場団地の出荷物の多くが首都圏や埼玉県北部などに輸送されています。

このため、これらをつなぐ東西方向の幹線道路が整備されれば、高速交通手段である東北自動車道・関越自動車道・上武道路へのアクセスが向上し、より一層の広域的物流の促進が見込まれるため「東毛広域幹線道路」の早期の整備完了が望まれています。

課題

東毛広域幹線道路については重要路線として重点整備を進めていますが、未整備箇所の周辺道路について慢性的な渋滞が発生しています。

交通の円滑化を図り、経済活動を支援する道路整備を推進する必要があります。

目的

高崎市、伊勢崎市、太田市、館林市といった県央地域・東毛地域の各都市を連絡する東毛広域幹線道路のアクセシビリティの向上を図り、周辺地域の産業に活力を与えます。さらに、東毛広域幹線道路沿線地域の産業立地ポテンシャルを高めます。

事業の指標

指標1 玉村東部工業団地から高崎玉村スマートICへのアクセス時間短縮率

現況：約20分(H19)⇒目標：約25%(約5分)短縮(H24末)

指標2 太田西部工業団地から上武道路へのアクセス時間短縮率

現況：約18分(H19)⇒目標：約17%(約3分)短縮(H24末)

指標3 関係市町（前橋市、高崎市、伊勢崎市、太田市、館林市、玉村町、千代田町、大泉町、邑楽町）の工業製品出荷額の増加率

現況：57,978億円(H18)⇒目標：約3%(1,739億円)増(H24末)

成果と達成度報告

指標1 東毛広幹道(高崎玉村バイパスの整備が進捗したことにより、**約35%(約7分)の時間短縮**となりました。

目標達成

指標2 東毛広幹道(太田市内交差点改良)の整備が完了したことにより、**約33%(約6分)の時間短縮**となりました。

目標達成

指標3 平成20年秋の「リーマンショック」の影響による景気低迷により、工業製品出荷額が平成21年度に大きく落ち込んだことから、**約2%(967億円)減**となりました。

■今後の方針

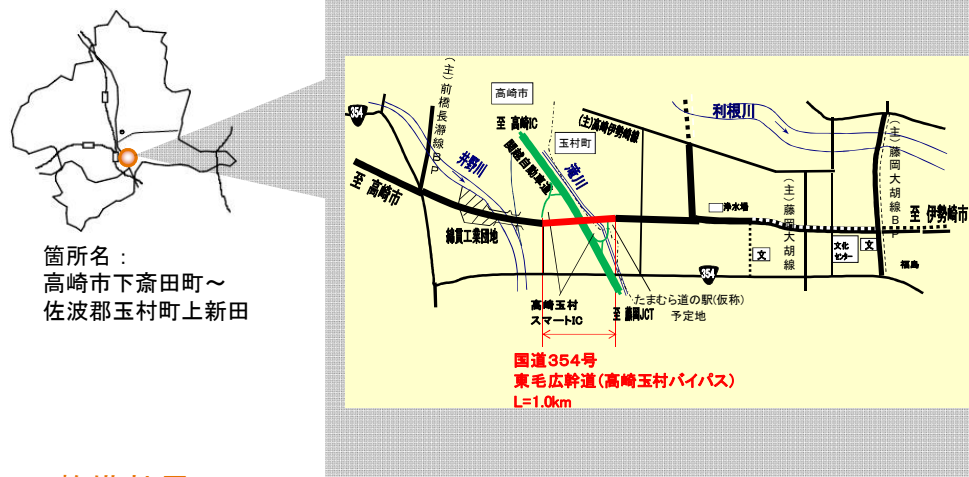
埼玉県と連携を図りながら「群馬埼玉地域における広域的産業・物流活性化計画」(H23～H27)を実施し、高規格道路と産業拠点とのアクセス道路を整備して物流機能を高めることにより、東毛広域幹線道路沿線地域のさらなる産業活性化を図っていきます。

東毛広域幹線道路沿線地域活性化基盤整備計画

整備効果事例

事例① 国道354号（東毛広幹道（高崎玉村BP）） バイパス整備

■位置図



■整備効果

整備前



バイパスが開通しておらず、広域交通の円滑化が図れていませんでした

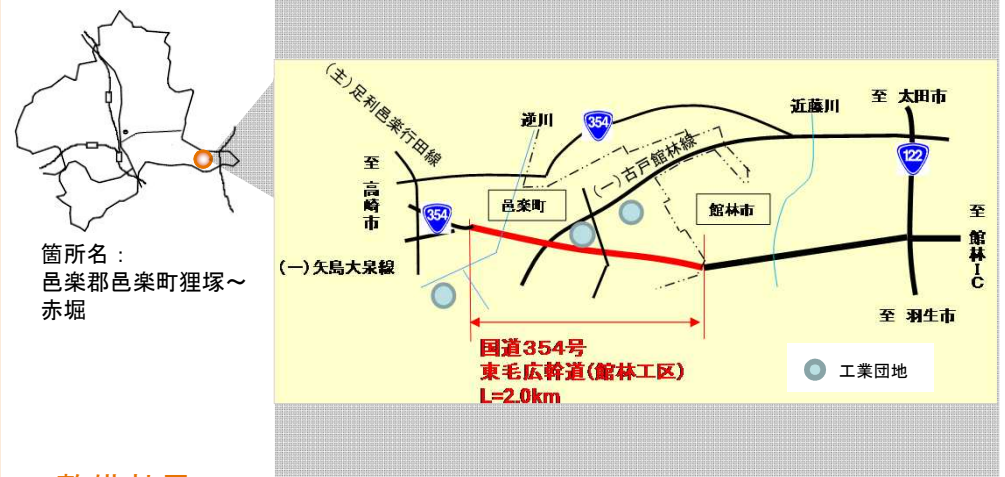
整備後



バイパスが開通し、ICまで円滑で快適な通行が可能になりました。

事例② 国道354号（東毛広幹道（館林工区）） 4車線化

■位置図



■整備効果

整備前



2車線のため、車両が混雑している状況でした。

整備後



4車線化により、物流の効率化が図られました。